

- 農林水産省地理情報共通管理システム（**eMAFF地図**）は、農地関連業務の効率化・省力化を図るため、
 - ①農地情報をデジタル地図として公表し、検索機能もある**eMAFF農地ナビ**
 - ②紙の地図を用いて行われてきた農地の現地確認を、タブレット端末 1 台で実施可能とする**現地確認アプリ**等の機能を持つシステムであり、令和 3 年度から開発を進め、**令和 4 年度より運用**を行っている。
- 食料・農業・農村基本計画（令和 7 年 4 月 11 日閣議決定）においては、デジタルトランスフォーメーション（DX）推進の一環として、
 - ①地域計画における目標地図で示された農地利用意向情報の活用・デジタル化の促進
 - ②現地確認業務の効率化等に向けて、**eMAFF地図の利活用の向上を図る**こととされている。

食料・農業・農村基本計画（eMAFF地図関係抜粋）

第 5 食料、農業及び農村に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

1 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

（1）食料システムのあらゆる場面でのDXの推進

デジタル技術の高度化が進む中、・・・食料システム全体でみると、**デジタル技術を活用した社会的ニーズの高い価値を創造・提供する取組（DX）の一層の充実が必要**である。

このため、・・・**農林水産行政におけるデジタル技術の活用など、食料システムのあらゆる場面でのDXを推進**する。

（3）行政データ等の利活用の高度化

今後の現場の人手不足の深刻化に備え、**デジタルツールの活用を一層推進する必要がある**。また、**行政等が持つ様々なデータを高度利用**することで、従来対応が困難であった課題の解決や新たな取組の展開等が期待できる。

このため、**地域計画における目標地図で示された農地利用意向情報の活用・デジタル化の促進や、現地確認業務の効率化等に向けて、民間サービスとの連携も含め、農林水産省地理情報共通管理システム（eMAFF地図）の利活用の向上を図る**。

eMAFF農地ナビの概要

- eMAFF農地ナビは、農地台帳及び農地に関する地図の情報を一般公開するWebサイトで、年間のPV数（ページビュー数）は約2,000万件。
- サイトでは、地目・面積や権利設定のほか、衛星写真で農地の状況などを公表。
※衛星写真は、原則年次更新
- また、サイトで公表している情報はダウンロードでき、幅広く活用可能。
- これらの情報はWAGRIにも掲載済みであり、WAGRIのAPIを介して、民間サービスに取込み、営農活動に活用可能。

eMAFF農地ナビ

住所から探す 条件から探す お気に入り ダウンロード 注意事項 農地更新状況

基本的事項 表示設定 色分け 絞り込み

基本的事項

所在・地番

〇〇〇〇△△市□□XX-XX

☆ 農地をお気に入りへ登録

地目

田

面積

595.00m²(5.95a)

地域区分

農振法区分

農業振興地域内・農用地区域内(青地)

都市計画法区分

市街化調整区域

所有者の農地に関する意向

非公表

耕作者整理番号

〇〇〇〇〇〇〇〇 7

色分け

貸借権等権利設定の内容

権利の種類

貸借権

存続期間

2015年02月27日 ~

地図・住所検索

凡例

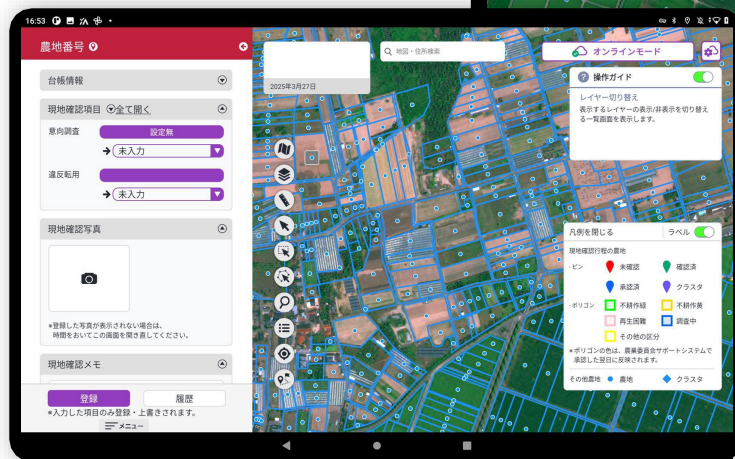
● 道民中の
● 不動産登記
● 農地
● 上記以外

筆ポリゴン
● 筆ポリゴン

- ・誰でも農地情報の閲覧が可能
- ・農地毎に地目・面積や権利設定の状況などを確認
- ・筆の色分けや絞り込み機能によって農地を探すことも可能
- ・高解像度の衛星画像を1年に1回更新しており、農地の把握にも活用

現地確認アプリの概要

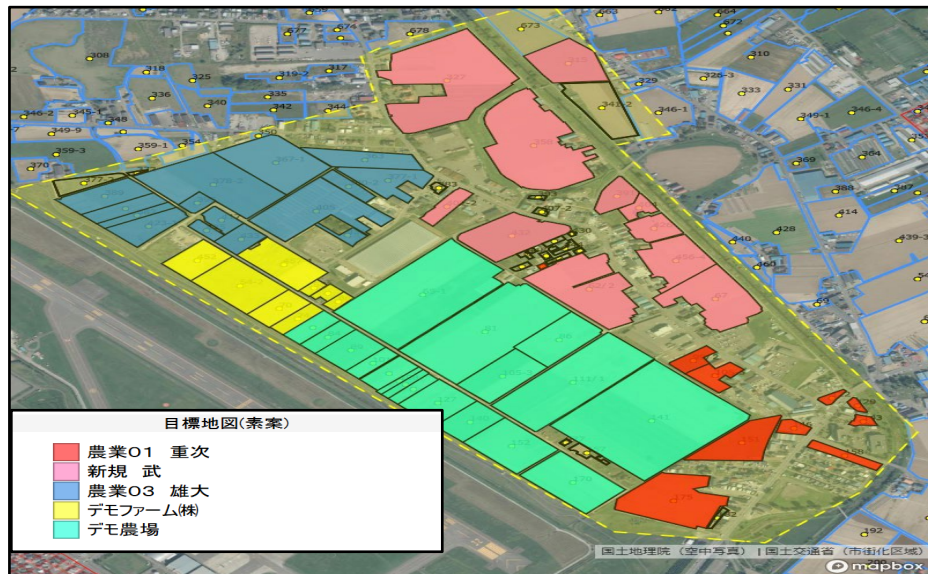
- 現地確認アプリは、**農業委員会の現地確認業務を効率化するためのアプリ**で、多くの農業委員会で利用。
- 本アプリにより、現地確認時に必要だった紙地図、台帳・調査野帳・デジカメの持参は不要となり、**タブレット一つで現地確認が可能**。
- 携帯電波の圏外の地域でも利用可能とする**オフラインにも対応**。



- ・タブレットひとつで現地確認が可能
- ・ルート検索で迷いなく現地確認
- ・目の前の農地を一目で特定
- ・写真やメモの整理が不要

(1) 目標地図のデジタル化支援

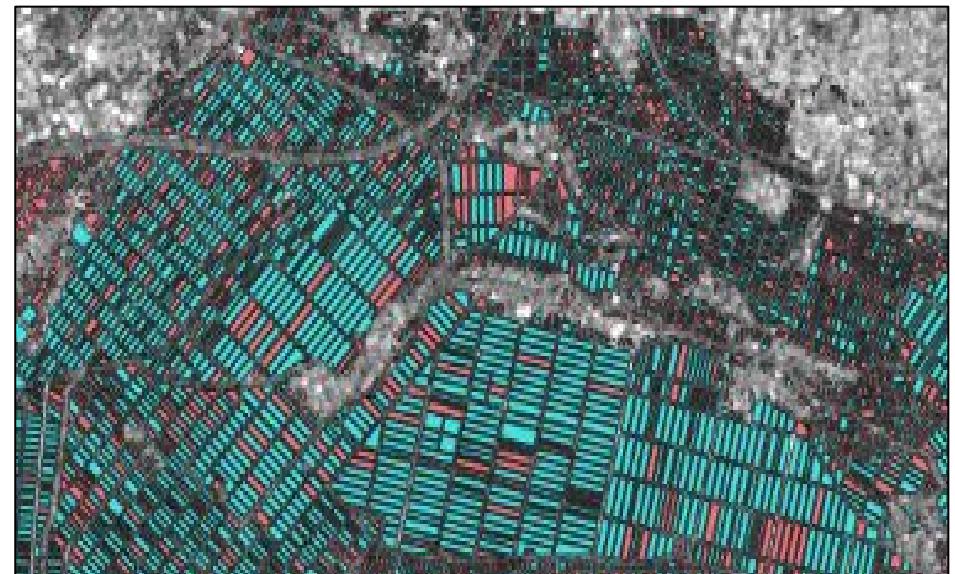
- 目標地図は、**PDFや紙による作成も多いが、デジタル化により更新作業の省力化、情報分析への活用、eMAFF地図との連動等**が期待。
- このため、eMAFF地図の農地データと連携させながら、**現場におけるデジタル化への課題や対応策の検討・デジタル化事例集の作成等**を実施。



デジタル化された目標地図の素案のイメージ

(2) 現地確認業務の効率化支援

- eMAFF地図事業は、これまで農業委員会における現地確認アプリの活用を推進。
- また、**現地へのナビ機能、メモ機能等の現地確認を行う上で最低限の機能**を備えた、**eMAFF農地ナビとGoogle マップ等を連携させた手法の紹介を農業共済団体・農業再生協議会等に対して実施**。
- さらに、**衛星画像を活用した、現場訪問を省略できる複数の確認手法の実証**を実施予定。



衛星画像を活用した確認結果のイメージ

(参考) eMAFF地図データの民間サービスと連携させた活用

- スマホでeMAFF農地ナビを閲覧するとスマホの地図アプリと連携でき、農地へのナビゲーション機能が利用可能。
- また、eMAFF農地ナビで公開している農地データ（農地一筆毎の地番・緯度経度等）は、一般ユーザーが無償でダウンロードでき、民間サービスと連携させて活用可能。
 - ・Google マップ等に、ダウンロードした情報を取込むことで、農地へのナビゲーション機能に加え、距離が離れた複数の農地への経路検索や、現地確認結果のメモや写真等の入力に活用可能。
 - ・営農管理アプリ等にダウンロードして一筆毎の管理に活用可能。

